

平成24年度総会・全国研究集会の日程

期 日：平成24年6月19日（火）・6月20日（水）

会 場：東京商工会議所（東京都千代田区丸の内3-2-2）

後 援：国立国会図書館（社）日本図書館協会（独）科学技術振興機構（社）情報科学技術協会

時 間	事 項	行 事 内 容	会 場	
理事会・総会				
11:00~11:40	理事会		特別会議室S (4階)	
11:40~13:00	休 憩	プロダクト展示見学	国際会議場 (7階)	
13:00~13:30	総会受付			
13:40~14:30 14:30~14:50	総 会 表彰式			
全国研究集会				
総合テーマ『専門図書館の今日的機能を問い直す』				
<p>東日本大震災以降、各人が的確な情報を入手し、その情報を判断のうえ、行動することが求められるようになってきています。しかし、こうしたことは、緊急時や非常時に限らず、日常のビジネスや社会生活の場でも求められることです。そこで、いま一度、専門図書館の機能を、多様な観点から問い直し、いかにして利用者のニーズに応じていくべきかを検討する機会を設けます。</p>				
6 月 19 日 (火)	15:10~15:40	開会式	開会挨拶 中村理事長 来賓挨拶 国立国会図書館 大滝館長 日本図書館協会 塩見理事長 科学技術振興機構 中村理事長 メッセージ SLA ジャニス・ラチャンスCEO	
	15:40~16:00	休 憩		
	16:00~17:30	基調講演	西成 活裕氏 （東京大学先端科学技術研究センター教授） 「シゴトの渋滞とゆとり」 無駄を省くことは組織の効率を改善していく上でとても重要なことです。しかし無駄の効用という言葉の通り、それをただ省いていっただけでもいけませんし、ゆとりがないと逆に大きな無駄を生んでしまうこともあります。講演では、シゴトを渋滞させてしまう原因や、それを防ぐ方法などについて渋滞学の立場でお話いたします。	
	17:30~17:50	休 憩	会場移動	
	18:00~19:30	交流会		特別会議室 A・B

分科会の概要（午前の部：6月20日（水）9:30～11:30）

第1分科会

「企業図書館は発信する」

先の大震災では、社会全体で情報入手・発信経路が多様化し、大きく変化していることが明らかになりました。翻って組織の中を見ても、IT技術の進歩に伴い、図書館や情報センターにおける情報収集・提供方法は変わり、さらに利用者の行動にも影響を与えています。

第1分科会では、社会や環境の変化の中、自らの機能や提供するサービスをどのように位置づけ、今まで以上に組織内で情報の活用を促進するために何を実践しているのかを、ラクオリア製菓株式会社の村瀬氏と株式会社日本電気特許技術情報センターの岡氏をお招きし、お話を伺います。講演と質疑応答を通じて、参加者の皆さまの日々の業務を改善するヒントをご提供できればと思います。

① 村瀬 菜都子氏
(ラクオリア創薬(株))
「企業規模と図書館ブランド戦略」

② 岡 雅之氏
(株)日本電気特許技術情報センター
「企業図書館における広報活動」

【司会】日高 真子((独)科学技術振興機構) 【運営】高土 正巳(東京商工会議所経済資料センター)

第2分科会

「埋もれている情報を求めて」

Web上には多種多様な情報源が存在します。これからの情報は、検索エンジンやデータベース等を活用することで容易に検索が可能ですが、しかしその反面、検索結果の上位にこない情報や検索結果として表示されない情報は、存在しない情報とみなされる可能性も高くなります。

第2分科会では、ユーザーの目に触れにくいこれらの情報を発見する試みとして、各種WebサービスのAPIやTwitterを活用し、図書館等が提供するデータベースから意外な論文や情報を見つけ出す仕組みである「論文ったー」等の事例を紹介し、さらには、CiNiiのメタデータにも応用されている、情報を見つけやすくするためにお互いのデータをつなげる「Linked data」という概念について取り上げ、既存のデータを活用することで、新しい価値を生み出していく試みについて考えていきたいと思いをします。

① 山田 俊幸氏
(明治大学 米沢嘉博記念図書館)
「空気を読んで論文を紹介する「論文ったー」

② 大向 一輝氏
(国立情報学研究所 准教授)
「CiNiiとLinked Open Data」

【司会】池田 貴儀((独)日本原子力研究開発機構) 【運営】池田 美佐子((一社)日本自動車工業会)

第3分科会

「今後の私立図書館の運営」

私立図書館は、団体の設立理念のもと独自の特色あるサービスを展開してきました。蔵書構成は専門分野に特化しており、きめ細かいレファレンスサービスを提供するなど、利用者や他の図書館にとって最後の拠り所ともなる存在です。

私立図書館またはその設置母体である公益法人は、公益法人制度改革により平成20年12月からの5年間の移行期間内に、必要な手続きを行い、新制度に移行しなければなりません。これは私立図書館の存続や運営に大きな影響をもたらすものです。

また、平成20年に改定された図書館法では、文部科学省が図書館の設置及び運営上の望ましい基準を定めて公表することとされました。これは、公立図書館に加えて初めて私立図書館も対象とするものです。

こうした大きな環境の変化に、私立図書館の現場ではどのように対応しているのか検証します。また、これまでの私立図書館の活動を継承しつつ、さらなる発展のための方向性を探りたいと思いをします。

① 田邊 由美氏
(財)石川文化事業財団
お茶の水図書館
「お茶の水図書館の運営—
一般財団法人への移行を
目指して」

② 須貝 弥生氏
(公財)松竹大谷図書館
「松竹大谷図書館の運営—
公益財団法人への移行を終
えて」

③ 藤田 節子氏
(川村学園女子大学教授)
「私立図書館を巡る動向
と課題」

④ 【パネラー】田邊由美、須貝弥生、藤田節子
【司 会】田村靖広
パネルディスカッション
「私立図書館の発展をめざして」

【司会】田村 靖広((公財)後藤・安田記念東京都市研究所 市政専門図書館)

【運営】西坂 麻里子((財)石川文化事業財団 お茶の水図書館)

分科会の概要（午後の部：6月20日（水）13:00～16:00）

第4分科会

「専門図書館における著作権ナウ」

デジタル化の時代において、複写サービスはもちろん、情報加工や情報発信、資料保存のためのメディア変換等の際にも著作権法が関わってきます。著作物を取り扱うことが任務である図書館にとって、著作権法の知識は必須ですが、特に専門図書館においては、著作権法第31条「図書館等における複製」が適用されない館も多く、また適用される館においても、複製権の権利制限の範囲は限られ、その他の権利にも配慮しなければなりませんので、著作権法の基本的な知識のみならず、その改正や議論の動向にも留意する必要があります。

第4分科会では、国立国会図書館の資料デジタル化に関する著作権対応の現状や、TPPが導入された場合の著作権法に及ぼす影響について、最新のお話を伺うとともに、「著作権Q&A」改訂のご紹介もさせていただき、参加者のみなさまが今後の図書館運営をより深く考えるきっかけにできればと考えております。

① 廣瀬 信己氏 (国立国会図書館 電子情報部電子情報企画課 課長補佐) 「国立国会図書館における 資料のデジタル化と送信サービス」	② 福井 健策氏 (骨董通り法律事務所 弁護士) 「TPPと著作権」	③ 時実 象一氏 (愛知大学 教授・ 専門図書館協議会著作権委員会委員長) 「著作権Q&Aを作成して」
--	--	--

【司会】及川 直文((株)日本政策投資銀行)

【運営】山崎 美和(印刷博物館ライブラリー)

第5分科会

「資料保存・修復の今日的課題を問い直す」

東日本大震災被災地の図書館・文書館・博物館等では、津波による浸水、建物の倒壊等により所蔵資料・文書が深刻な被害を受け、今なお、復旧・修復作業が続いています。被災地以外の図書館においても書架の倒壊、所蔵資料の大量落下等に伴い、資料破損の問題が起きています。

蔵書を適切に保存し、現在そして後世に伝えていく責務を担う図書館員にとって、資料保存と修復は、喫急の課題であると同時に長期的なビジョンで取り組むべきミッションでもあります。

第5分科会では、専門家3名をお招きし、資料の保存・修復に関する最新情報と、マイクロ化・電子化など代替媒体への変換技術について学び、意見交換する場を創ります。

① 木部 徹氏 (東京文書救援隊事務局長) 「最悪に備え、最良を計る－ 被災資料復旧ボランティア活動からの提言」	② 床井 啓太郎氏 (一橋大学社会科学古典資料センター) 「西洋古典資料の保存と修復－一橋大学 社会科学古典資料センターの取り組み」	③ 添野 貴史氏 (株)国際マイクロ写真工業社 「媒体変換の現場－ 所蔵資料の現在、そして未来のために」
---	---	---

【司会】村井 友子((独)日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館)

【運営】水谷 長志((独)国立美術館東京国立近代美術館)

第6分科会

「デジタル時代における新たなサービスの潮流」

情報技術の進展に伴い、館種を問わず図書館では多様なサービスが展開されています。具体的には、SNSを導入し、利用者とのつながりを促進している図書館、APIを活用して図書館の所蔵情報、論文、ウェブページなどの横断検索を実現している図書館などが挙げられます。

第6分科会では、FaceBook、Twitter、図書館API、USTREAMといった新たなウェブツールを活用することによって、図書館サービスを展開している3人の図書館員をお招きします。講師の方々からは、自館における取り組みの経緯や各種ウェブツールの活用事例、それらを使用するにあたっての基礎知識や留意点などを説明していただきます。

本分科会では、3人の講師とともに、図書館サービスに付加価値を付ける方法や新たな情報発信のあり方を検討していきます。

① 宮川 陽子氏 (福井県立図書館) 「福井県立図書館 ツイッター・ フェイスブックの歩みとこれから」	② 長谷川 拓哉氏 (ゆうき図書館) 「公共図書館におけるAPI活用－ ゆうき図書館「新着雑誌記事速報」を例に」	③ 林 賢紀氏 (農林水産省農林水産研究情報総合センター) 「USTREAMとソーシャルメディアを 活用した新たなセミナーの運営」
--	---	--

【司会】青柳 英治(明治大学)

【運営】池田 貴儀((独)日本原子力研究開発機構)